



KAWASAKI  
SDGs

川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市

川崎市 まちづくり局 登戸区画整理事務所  
〒214-0014 川崎市多摩区登戸2202-1

044-933-8581 (工事担当)



# 登戸土地区画整理事業 公園基本計画

令和3年8月



Colors, Future!

いろいろって、未来。

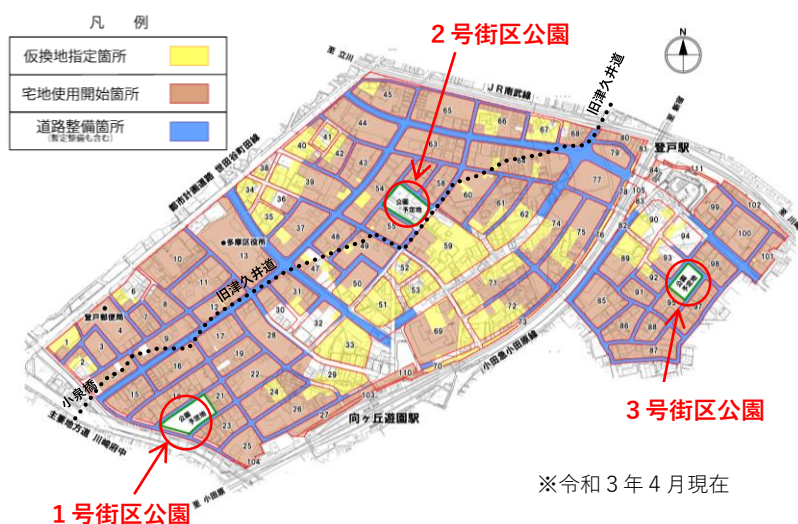
川崎市



## 1. 公園基本計画策定の背景・目的

- ✓ 登戸駅周辺は、かつて津久井道沿道の宿場町として賑わいと活気にあふれ、多摩川の渡しなどにより人の往来が盛んなまちでした。
- ✓ 昭和63年に、登戸駅周辺において、急激な人口増加による生活環境の悪化の改善等を図るため土地区画整理事業に着手しました。
- ✓ これまで、地区内の公園予定地は、登戸土地区画整理事業の推進のために、仮設店舗や仮設住宅といった、権利者の生活再建の一時的な移転先などに活用されてきました。
- ✓ 平成23年度に作成した登戸土地区画整理事業土地利用計画図（地区別方針図）における住宅地地区の公共空間の整備方針では、「地区の特性（自然・歴史・文化施設等）を活かし、地域住民の利便に供する公園をつくる。（住民意見をもとに計画作成）」としています。
- ✓ 現在、事業の進捗は終盤を迎え、公園整備に向けた計画を策定する時期に来ており、令和2年度に市民のみなさまとの協働による公園計画づくりのためのワークショップを開催しました。
- ✓ ワークショップでいただいたご意見等を踏まえ、地域に愛され、多世代が大いに活用することができる公園を目指し、地区内3公園の基本計画を定めるものです。

登戸土地区画整理事業の進捗と街区公園の位置図



新たに整備する公園の面積

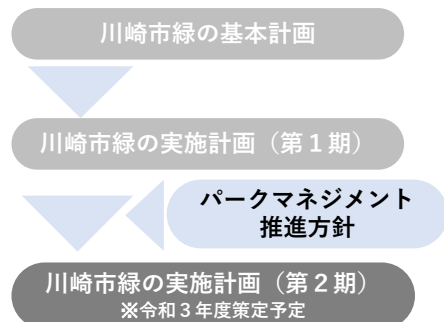
- ✓ 1号街区公園 2,500㎡ (955㎡暫定供用中)
- ✓ 2号街区公園 2,500㎡
- ✓ 3号街区公園 1,500㎡ (319㎡暫定供用中)

街区公園とは？

- ✓ 主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園。
- ✓ 誘致距離250mを標準とする。
- ✓ 1箇所当たり面積0.25ha (2,500㎡) を標準とする。  
(都市計画運用指針より)

## 2. 近年の川崎市公園施策の動向

- ✓ 公園緑地の柔軟かつ多様な利活用を推進するとともに、持続可能な管理運営の仕組みの構築に向けて取り組んでいくことで、公園緑地のポテンシャルや多機能性を引き出し、公園緑地の新たな価値の創出による質の向上とさらなる魅力向上を図るため、「パークマネジメント推進方針」を令和3年3月に策定しました。
- ✓ 令和3年度に「川崎市緑の実施計画（第2期）」の策定を予定しています。



## 3. 公園緑地の現状と課題

川崎市の公園緑地では、以下の現状や課題が挙げられます。

- ✓ 公園緑地は、地域住民の運動や自然鑑賞、レクリエーション、スポーツなどの場として日常的に利用されています。
- ✓ 一方で、一部の公園緑地では、近隣への騒音や利用者間のトラブル等により、自由な遊びが制限され、魅力が減少している公園緑地も出てきています。
- ✓ 市民ニーズでは、園路や広場、トイレなどの基本的な機能を求める声が多かったことに加え、カフェ・レストランといった便益施設のニーズも一定程度あります。
- ✓ 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響等により、公園緑地を含むオープンスペースについて、「三つの密」（密閉・密集・密接）を回避する観点や、テレワークにより自宅近くで過ごす時間が増え、身近な憩い空間の重要性が再認識されています。
- ✓ 市内の街区公園1,010箇所のうち753箇所において、愛護会・管理運営協議会が設置され、日常的な維持管理活動など、市と地域との協働による取組を行っています。  
(令和3年7月時点)
- ✓ これらの団体は、毎年一定程度の設立がある一方、高齢化や担い手の不足等により活動の継続が困難などの理由から、解散が発生し、団体の設置数は伸び悩んでいます。

- 📌 **Point** 様々な利用ニーズにどのように対応するか
- 📌 **Point** 管理運営する仲間をどのように集めるのか

## 4. ワークショップの実施

地域からの公募や、周辺の町内会の方々等にご参加いただき全3回のワークショップを開催しました。周辺地域が持つ特性や、地域のみなさまのニーズを踏まえ、各公園のキャッチフレーズや大切にしたいポイント等を決めました。

### 第1回 ワークショップ (令和2年10月17日(土))

テーマ：『あなたは公園でどのような時間を過ごしたいですか』  
⇒ 3つの公園の使い方、欲しい公園を話し合いました。

### 第2回 ワークショップ (令和2年12月5日(土))

テーマ：『あなたは公園の中にどんな空間をつくりたいですか』  
⇒ 空間の構成や空間づくりを検討し、空間のイメージを創り上げました。

### 第3回 ワークショップ (令和3年3月27日(土))

テーマ：『あなたは公園が地域の中でどのような存在であってほしいですか』  
⇒ 第1回、第2回のワークショップを踏まえて、みなさまの意見をまとめたレイアウトイメージをたたき台に、大切にしたいポイントを確認し合うとともに、今後の管理運営について話し合いました。





## 5. 新たに生まれる地区内3公園の基本的な考え方

地区内の3公園は、市の基幹となる生田緑地や稲田多摩川公園に挟まれた身近な街区公園です。駅に近い立地や、津久井道沿道の宿場町として栄えた歴史文化など、地域特性を大事にする地域の声も踏まえ、以下の考え方を計画の基本にします。

こんな公園を目指して・・・毎日使えて、誰かと会える。会話をしたり、ゆっくりくつろいだりできる。

- ①. 地域ニーズに合わせた公園づくりにより、日常的に利用され、多様につながり、幸福を感じられる、地域の居場所を創出する。

こんな公園を目指して・・・住んでいる地域の人から愛されている。いつもきれいに使われている。

- ②. 地域の庭として、身近な公園に愛着を持ってもらい、魅力的な公園にするため、地域主体による持続可能な公園の管理運営をめざす。

こんな公園を目指して・・・子供から高齢者まで誰でも日常利用できるし、地域のお祭りや団体等の活動、災害時の一時避難場所など、いろいろな使われ方ができる。

- ③. 多世代が、多様に活用できるよう基本的な機能として『広場』・『遊具』・『緑』を各公園へ配置しつつ、地域ごとの個性を活かす。

## 6. 各公園のキャッチフレーズと大事にしたいポイント

ワークショップでのご意見を踏まえて、各公園のコンセプトを決めました。これらを今後の公園整備の設計に反映させていきます。

### ● 1号街区公園【緑豊かなみんなの公園】

#### ●大事にしたいポイント

- ✓自然を感じられる - 季節を感じられる樹木や草地などの緑を配置
- ✓安心して子供が遊べる - 幼児用遊具ゾーンを配置
- ✓多世代が利用できる - 遊具以外にも多目的に利用できる広場や、健康器具、歴史モニュメントの配置
- ✓持続可能な管理運営 - ボール遊びなど地域も利用者也安心のルール作り

### ● 2号街区公園【みんなの木陰(～地域の特徴を活かした多世代の笑顔あふれる公園～)】

#### ●大事にしたいポイント

- ✓若者をはじめ、子どもからお年寄りまで多様に使える
  - 多様な利活用ができる大きな広場を配置
- ✓木陰でくつろげる - シンボルツリーや季節を感じさせる樹木など豊かな緑、サークルベンチ、パーゴラを設置
- ✓安心して子供が遊べる - 大人が見守れるような幼児用遊具ゾーンを配置
- ✓地域の特徴を活かす - 津久井道や小泉橋など地域の歴史を感じることができる空間

### ● 3号街区公園【登戸の顔となる公園をみんなで育てよう】

#### ●大事にしたいポイント

- ✓多世代から愛され、人が集まる登戸の顔 - 遊具以外にも多様な利活用ができる広場を駅側に大きく確保し、緑やベンチ等を配置
- ✓安心して子供が遊べる - 幼児用遊具ゾーンを配置
- ✓持続可能な管理運営 - 多様な主体が活用できると同時に、担い手が広がる仕組みづくり



## 7. 持続可能な管理運営の仕組み

地域の様々な団体等との連携・協力により、日常的な維持管理を支える持続可能な管理運営協議会をつくります。

- ✓管理運営協議会は、地域が主体となり、身近な公園を「地域の庭」として管理運営する組織です。
- ✓持続可能な活動に向け、町内会だけでなく、学校や保育園をはじめ、企業、子育て支援サークルや緑の育成団体など、多様な主体の参加が必要です。
- ✓管理運営協議会により、地域のお祭りやイベント等の利用調整が行えるほか、地域の実情にあった利用ルールづくりなど、地域のニーズに合わせて公園を有効活用することができます。
- ✓地区内に新たに生まれる3公園では、整備前から市と地域が協働することで、使い勝手の良い、管理運営を意識した公園づくりを進めます。

### 管理運営協議会の役割

- ✓公園内の清掃・除草
- ✓低木の刈り込み
- ✓破損遊具・不法投棄の連絡
- ✓樹木の下枝落とし
- ✓花壇の維持管理
- ✓行事等の利用調整など

### 協議して決める取組

- ✓公園の適正利用に関すること
- ✓芝刈り、ササ刈り
- ✓排水溝の清掃
- ✓病虫害の防除など
- ※管理運営協議会結成前に市と協議

### 市の役割

- ✓公園施設の補修・改修
- ✓高木・中木の剪定
- ✓不法投棄の処理
- ✓台風災害の処理
- ✓管理運営協議会の運営に関する指導・助言など

- ※1号街区公園では暫定供用部で公園管理運営協議会が活動しています。
- ※2号、3号街区公園では公園管理運営協議会の発足に向けて準備を進めています。
- ※協議会には、どなたでも参加することができます。

## 8. 公園整備スケジュール

事業進捗等を踏まえて、以下の整備スケジュールを想定しており、今後、管理運営協議会と整備の詳細について協議し、公園づくりを進めます。

	令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度	令和5年度 2023年度	令和6年度以降 2024年度以降
1号街区公園		・レイアウト検討 ・詳細設計	公園整備	
2号街区公園		・レイアウト検討 ・管理運営協議会発足 ・詳細設計		公園整備
3号街区公園	・レイアウト検討 ・管理運営協議会発足 ・詳細設計	公園整備		

※事業の進捗により、スケジュールが前後する場合があります。



# 1号街区公園

キャッチフレーズ

緑豊かなみんなの公園

レイアウトイメージ



## 大事にしたいポイント

- ✓ 自然を感じられる ⇒ 季節を感じられる樹木や草地などの豊かな緑を配置
- ✓ 安心して子供が遊べる ⇒ 幼児用遊具ゾーンを配置
- ✓ 多世代が利用できる ⇒ 遊具以外にも多目的に使用できる広場や、健康器具、歴史モニュメントの配置
- ✓ 持続可能な管理運営 ⇒ ボール遊びなど地域も利用者が安心のルール作り

## 他にもこんな意見がありました

- ・子供達が思い切り遊べるボール広場
- ・ジェイボードやキックボードが利用できるような舗装広場
- ・災害や園芸等で使える井戸
- ・ゴムチップ舗装（やわらかい舗装）
- ・子供達が季節や自然を感じられる木々（ダンゴムシを見つけたり木の実を拾ったり）
- ・府中街道の高架下活用も一緒に検討したい
- ・周囲を歩く人も利用しやすいベンチ
- ・広場ゾーンに芝生広場を一面つくる／周囲には花壇の配置
- ・広場の使い方の具体的なルール決め
- ・時間による使い分けや、幼児や中高生がエリアごとで遊べるとよい
- ・桜並木があってもよい。
- ・木の種類で季節感を感じられるように配置してほしい。
- ・高い木が多すぎると、暗い公園になってしまう心配がある。

※レイアウトイメージに反映していないこれらのアイデアや意見につきましては、今後地域のみなさまと必要となる条件等を整理しながら具体的な検討を行います。



※ワークショップ参加者からの意見をもとに作成したイメージ図



## 2号街区公園

キャッチフレーズ

### みんなの木陰

～地域の特徴を活かした多世代の笑顔あふれる公園～

レイアウトイメージ



※ワークショップ参加者からの意見をもとに作成したイメージ図

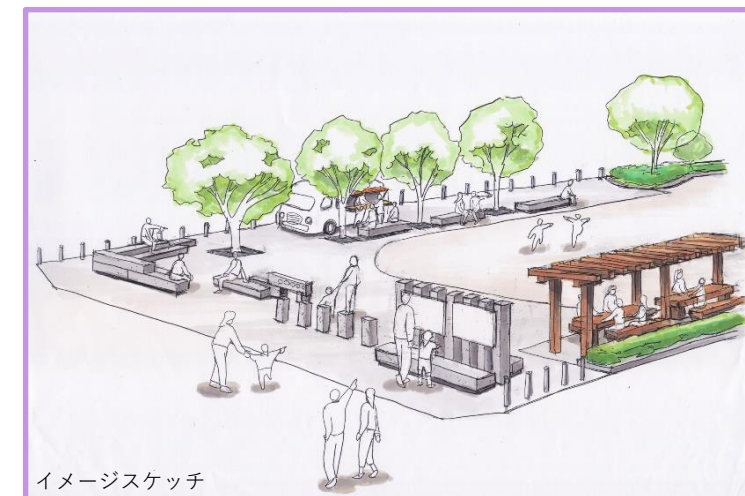
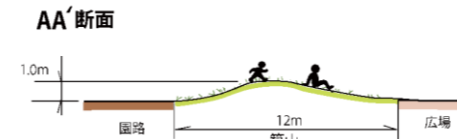
### 大事にしたいポイント

- ✓若者をはじめ、子どもからお年寄りまで多様に使える ⇒ 多様な利活用ができる大きな広場を配置
- ✓木陰でくつろげる ⇒ シンボルツリーや季節を感じさせる樹木など豊かな緑、サークルベンチ、パーゴラを配置
- ✓安心して子供が遊べる ⇒ 大人が見守れるような幼児用遊具ゾーンを配置
- ✓地域の特徴を活かす ⇒ 津久井道や小泉橋など地域の歴史を感じることができる空間

### 他にもこんな意見がありました

- ・ボール広場、バスケットゴール
- ・安全だと一目で分かる見通しの良さ
- ・道路、マンションからの目隠し
- ・雨の日でも人が集まれる建物、集会所
- ・木登りできる木
- ・炊き出しもできるかまどベンチ
- ・イベントや災害時に使える電源
- ・特徴的な遊具があると良い
- ・きれいなトイレ
- ・防犯カメラ
- ・ターザンロープ
- ・自転車置き場
- ・夏場に熱くなって遊べなくなる遊具は避けたい
- ・高校生になっても使える公園
- ・公園で仕事ができたらいい
- ・親しみを持った愛称で呼ばれるような公園
- ・夢のある公園をみんなで考えていきたい
- ・次の世代につなげられる公園であってほしい

※レイアウトイメージに反映していないこれらのアイデアや意見につきましては、今後地域のみなさまと必要となる条件等を整理しながら具体的な検討行っていきます。





# 3号街区公園

キャッチフレーズ

登戸の顔となる公園をみんなで育てよう

レイアウトイメージ



※ワークショップ参加者からの意見をもとに作成したイメージ図

## 大事にしたいポイント

- ✓ 多世代から愛され、人が集まる登戸の顔
  - ⇒ 遊具以外にも多様な利活用ができる広場を駅側に大きく確保し、緑やベンチ等を配置
- ✓ 安心して子供が遊べる
  - ⇒ 幼児用遊具ゾーンを配置
- ✓ 持続可能な管理運営
  - ⇒ 多様な主体が活用できると同時に、担い手が広がる仕組みづくり

## 他にもこんな意見がありました

- ・ 幼児や高齢者が気軽に休める休憩所（室内でも遊べる施設）
- ・ イベント等で利用するための電源設備
- ・ なだらかな丘（築山）
- ・ 木の実やどんぐりのなる木
- ・ 自転車置き場
- ・ 多摩区のアーティストを活かしたベンチなど
- ・ 防災備品などがしまえる収納縁台
- ・ ボール広場
- ・ テーブルベンチ
- ・ トイレ
- ・ 活用したい人が、公園の環境整備にも参画できる仕組み
- ・ 駅から降りてすぐの、顔となって、まちの入口になる公園
- ・ 親しみを持った愛称で呼ばれるような公園
- ・ 親しまれる個性が公園にあると、みんなが守りたい、きれいに保ちたいと思うような場所になり、結果的に地域に還元される

※レイアウトイメージに反映していないこれらのアイデアや意見につきましては、今後地域のみなさまと必要となる条件等を整理しながら具体的な検討を行っていきます。

